

目的：前報の「女子短大生にみる人と服のコーディネート」の発表では、女子短大生は自己のからだつきに対してマイナスイメージの評価を下す傾向と、衣服選択にあたり、からだつきよりもデザインを重視する傾向があることを明らかにした。引き続き本報では女子短大生のからだつきの自己評価、満足度、理想値などから若い女性のからだつきに対する一般的な意識とそれを形成する要因を明らかにすることを目的にした。

方法：1993年9～10月に都内の女子短大生275名を対象に、21項目の身体計測と70項目のからだつきに関するアンケート調査を実施した。この資料を用いて単純集計、クロス集計、因子分析により解析を行い検討した。

結果：①女子短大生は周径項目が大きいことに不満がある。しかし胸囲については小さいことが不満である。下半身の高径・長径項目ではやや低い、短いことが不満である。からだつき全体としては満足・やや満足を合わせても7%に満たず、不満・やや不満を合わせると約85%である。②絶対的な理想のからだつきは、女子短大生の間で共通の理想値ができあがっており、身体各部位の理想値のバラツキは現実値と比べて小さい。また自分のからだの可能な範囲での理想のプロポーションは現実値との間に有意な差がみられる。因子分析結果からもよりスリムなプロポーションを望む7つの因子が抽出された。③からだつきの意識を形成する主な要因としては格好の良さ、流行りの衣服、マスコミの影響があげられる。女子短大生はからだつきに関する雑誌の記事に興味があり活用している。